

築堤・護岸詳細設計照査要領

平成27年7月一部改定

北海道建設部

委託者

主任担当員
担当員

契	約
---	---

設計計画原案

現 地 踏 查

第1回 打合せ

照査計画の策定

照査技術者

設計計画

照 查 ①

基本条件の照査

照査技術者

照查項目一覽表

主任担当員
担当員

照査状況の把握
及び条件指示

報告①（基本条件の照査）

照查項目一覽表	
1	照查項目一覽表
2	照查項目一覽表
3	照查項目一覽表
4	照查項目一覽表
5	照查項目一覽表
6	照查項目一覽表
7	照查項目一覽表
8	照查項目一覽表
9	照查項目一覽表
10	照查項目一覽表
11	照查項目一覽表
12	照查項目一覽表
13	照查項目一覽表
14	照查項目一覽表
15	照查項目一覽表
16	照查項目一覽表
17	照查項目一覽表
18	照查項目一覽表
19	照查項目一覽表
20	照查項目一覽表
21	照查項目一覽表
22	照查項目一覽表
23	照查項目一覽表
24	照查項目一覽表
25	照查項目一覽表
26	照查項目一覽表
27	照查項目一覽表
28	照查項目一覽表
29	照查項目一覽表
30	照查項目一覽表
31	照查項目一覽表
32	照查項目一覽表
33	照查項目一覽表
34	照查項目一覽表
35	照查項目一覽表
36	照查項目一覽表
37	照查項目一覽表
38	照查項目一覽表
39	照查項目一覽表
40	照查項目一覽表
41	照查項目一覽表
42	照查項目一覽表
43	照查項目一覽表
44	照查項目一覽表
45	照查項目一覽表
46	照查項目一覽表
47	照查項目一覽表
48	照查項目一覽表
49	照查項目一覽表
50	照查項目一覽表
51	照查項目一覽表
52	照查項目一覽表
53	照查項目一覽表
54	照查項目一覽表
55	照查項目一覽表
56	照查項目一覽表
57	照查項目一覽表
58	照查項目一覽表
59	照查項目一覽表
60	照查項目一覽表
61	照查項目一覽表
62	照查項目一覽表
63	照查項目一覽表
64	照查項目一覽表
65	照查項目一覽表
66	照查項目一覽表
67	照查項目一覽表
68	照查項目一覽表
69	照查項目一覽表
70	照查項目一覽表
71	照查項目一覽表
72	照查項目一覽表
73	照查項目一覽表
74	照查項目一覽表
75	照查項目一覽表
76	照查項目一覽表
77	照查項目一覽表
78	照查項目一覽表
79	照查項目一覽表
80	照查項目一覽表
81	照查項目一覽表
82	照查項目一覽表
83	照查項目一覽表
84	照查項目一覽表
85	照查項目一覽表
86	照查項目一覽表
87	照查項目一覽表
88	照查項目一覽表
89	照查項目一覽表
90	照查項目一覽表
91	照查項目一覽表
92	照查項目一覽表
93	照查項目一覽表
94	照查項目一覽表
95	照查項目一覽表
96	照查項目一覽表
97	照查項目一覽表
98	照查項目一覽表
99	照查項目一覽表
100	照查項目一覽表

一般図作成

照 查 ②

— 細部条件、

照査技術者

構造細目の照査

照査項目一覧表、設計調書

主任担当員
担当員

照査状況の把握
及び条件指示

報告②(細部条件、構造物細目の照査)

照查項目一覽表、設計調書

設計	計算	書
詳細	図作	成
数量	算	出
施工	計	画

照	查	③
---	---	---

成果品の照査
設計計算書、設計図
数量計算書等
施工計画書等

照査技術者

照查報告書作成

設計調書の作成

照査技術者

(照査①～③及び設計調書を含む)

主 任 担 当 員	主 担 当 員
-----------	---------

・照査状況の把握

報告③(成果品の照査及び設計調書)

照查報告書

成果品提出・検査

受託者が実施する照査関連事項

- 築-2

築堤・護岸詳細設計

基本条件の照査項目一覧表

(照査①)

業務名：_____

委託機関：_____

受託者名：_____

照査の日付：_____

受託者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表(様式－1)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ①		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
1	設計の目的、主旨	1) 業務の目的、内容を理解したか。 2) 設計の項目、工程等について具体的内容を把握したか。	業務計画書 〃	☐ ☐	☐ ☐	
2	水域名、設計区間、工事時期	1) 水域名(河川名、池名等)は確認したか。 2) 将来計画と暫定計画を確認したか。 3) 設計区間は確認したか。 4) 工事時期は確認したか。	打合せ資料 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐	
3	河道条件	1) 河川特性(河川勾配、粒径、平面形状、砂州形状)を把握したか。 2) 計画高さ(堤防、高水位、高水敷、河床)は適正か。 3) 法線(堤防、低水路)は適正か。 4) 座標と基準点は適正か。 5) 既改修区間と本計画区間で水準点の整合は確認したか。 6) 河川整備基本方針及び河川整備計画等、上位計画を確認したか。 7) 対象地点のセグメント区分は妥当か。 8) 既往洪水の有無を確認したか。	設計図書・打合せ資料 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
4	現地踏査	1) 地形、地質、現地状況(洗掘・被災含む)及び社会状況を把握したか。 (貸与資料との整合性確認も含む) 2) 環境状況(騒音、振動等の配慮面)を把握したか。 3) 自然環境保護法について把握、配慮の必要性等を確認したか。 4) 河床材料・水質・高水敷の植生について確認したか。 5) 既設構造物及び取付状況等は把握したか。 6) 支障物件(地下埋設物等も含む)の状況を把握したか。 7) 上下流の既設護岸形式、重量を把握したか。 8) 隣接する家屋、地下水の利用等の調査は必要ないか。	打合せ資料 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
5	設計基本条件	1) 築堤の計画断面及び施工断面は妥当か。 2) 築堤材料は決定しているか。 3) 護岸形式は適正か。 4) 環境上の機能を確保しているか。 5) 護岸基礎形式は適正か。 6) 洗掘深の設定は妥当か。	設計図書・打合せ資料 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	

基本条件の照査項目一覧表(様式－1)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ①		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
		7) 根固めの形状、重量は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		8) 水際部の環境上の機能を確保しているか。	〃	☐	☐	
		9) 堀込河道の護岸法肩の処理は適切か。(河川環境向上)	〃	☐	☐	
		10) CO2発生制御に留意しているか。	〃	☐	☐	
		11) 必要に応じて、河床へのアクセスを考慮しているか。	〃	☐	☐	
		12) 考慮すべき特殊条件は確認したか。(水衝部、旧川跡、漏水部、 軟弱地盤、耐震設計対象区域、環境条件、被災履歴等)	〃	☐	☐	
		13) 安定計算の許容値、計算方法は確認したか。	〃	☐	☐	
		14) 締切水位は適正か。	〃	☐	☐	
		15) 瀬替、水替時流量は確認したか。	〃	☐	☐	
		16) 坂路、階段位置、側帯、車輛交換場所は適正か。	〃	☐	☐	
		17) 用、排水系統は適正か。	〃	☐	☐	
		18) 暫定施工、工区割り等について検討するのか。	〃	☐	☐	
		19) 移設施設の処理は適正か。	〃	☐	☐	
		20) 現況河川区域は確認したか。	〃	☐	☐	
		21) 関連する設計と整合はとれているか。	〃	☐	☐	
		22) 河川構造物(水門、堰、樋門、落差工等)及び橋梁の設計を 確認したか。	〃	☐	☐	
		23) 工法は総合評価を行い比較決定されているか。	〃	☐	☐	
		24) 測量調査の不足は無いか。基準点やベンチマークに問題は無いか。	〃	☐	☐	
		25) 地下埋設物・占用物件に関して、調査や整理がされているか。	〃	☐	☐	
		26) 護岸の設置範囲は妥当か。	〃	☐	☐	
		27) 河道の湾曲状況、みお筋は確認したか。	〃	☐	☐	
		28) 関連する計画・調査(河川計画、地質調査、環境調査等)を 確認したか。	〃	☐	☐	
		29) 河道法線と、堤防法線および護岸法線は整合しているか。	〃	☐	☐	
		30) 浸水想定区域、重要水防区域、水防警報区及び水位周知区間を 確認したか。	〃	☐	☐	
		31) 河道断面を確認したか。	〃	☐	☐	
		32) 現況高水敷幅を確認したか。	〃	☐	☐	
		33) 感潮域を確認したか。	〃	☐	☐	
		34) 現況河道の水深を確認したか。	〃	☐	☐	
		35) 周辺に井戸等の利用があるか確認したか。	〃	☐	☐	
		36) 河道の経年変化を確認したか。	〃	☐	☐	

基本条件の照査項目一覧表(様式－1)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ①		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
6	地盤条件	37) 堤防防御ラインを確認したか。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		38) 最深河床高の評価高を確認したか。	//	☐	☐	
		39) 平均年最大流量を確認したか。	//	☐	☐	
		40) 天端高の設定は適正か。	//	☐	☐	
		41) 護岸根入れ深さは適正か。	//	☐	☐	
		42) 護岸重量を確認したか。	//	☐	☐	
		43) 護岸の被災形態を確認したか。	//	☐	☐	
		44) 凍上による影響について確認したか。	//	☐	☐	
		45) 浸透流対策等の対策工検討の有無を確認したか。	//	☐	☐	
		46) 自立式構造の特殊堤の場合、耐震性能1～3の設定は妥当か。	//	☐	☐	
		47) 準拠する指針等を確認したか。	//	☐	☐	
			//			
		1) 土質定数の設定は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 地下水位の設定は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 追加調査の必要はないか。	//	☐	☐	
		4) 軟弱地盤かどうかの調査は必要か。	//	☐	☐	
		5) 軟弱地盤として検討する条件を確認したか。 (圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等)	//	☐	☐	
7	設計水平震度	6) 調査孔位置・高さは妥当か。	//	☐	☐	
		7) 地盤液状化が発生するか。	//	☐	☐	
		8) 被圧水層の有無を確認したか。	//	☐	☐	
		1) 地盤種別は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 設計水平震度は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 地域補正係数は妥当か。	//	☐	☐	
		4) 構造物特性補正係数は妥当か。	//	☐	☐	
		5) 近傍の設計との整合が図れているか。	//	☐	☐	

基本条件の照査項目一覧表(様式-1)

築堤・護岸詳細設計

[illegible]

基本条件の照査項目一覧表(様式－1)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ①		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
12	貸与資料の把握	2) 北海道公害防止条例の適用区域及び規制値を確認したか。	関連機関との協議資料	☐	☐	
		3) 協議を要する法的規制区域の管理者との調整内容を確認したか。 (保安林、埋蔵文化財等)	〃	☐	☐	
		4) 土砂の処理場、または土取場の位置、規模は確認したか。	〃	☐	☐	
13	環境及び景観検討	1) 貸与資料の不足、追加事項があるか。	業務計画書	☐	☐	
		2) 貸与された資料は最新版か確認したか。	〃	☐	☐	
		3) 事務所、河川毎に統一された基準、要領等があるか。	〃	☐	☐	
14	コスト縮減	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。	打合せ資料	☐	☐	
		2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。	〃	☐	☐	
		3) 環境調査結果などから、貴重な動植物について確認したか。	〃	☐	☐	
15	建設副産物対策	1) 概略・予備設計において提案された「コスト縮減設計留意書」について確認したか。	打合せ資料	☐	☐	
		1) 概略・予備設計において提案された「リサイクル計画書」について確認したか。	打合せ資料	☐	☐	

基本条件の照査項目一覧表(様式-1)

(追加項目記入表)

築堤・護岸詳細設計

[illegible]

築堤・護岸詳細設計

細部条件の照査項目一覧表
(照査②)

業務名：_____

委託機関：_____

受託者名：_____

照査の日付：_____

受託者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

築堤・護岸詳細設計

[illegible]

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
5	矢板護岸	4) 基礎矢板の根入深さは妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		5) 帯工及び目地の配置は妥当か。	//	☐	☐	
		6) 材料使用区分(プレキャスト、場所打ちの使用区分、部材の重量等)は妥当か。	//	☐	☐	
		7) 安定計算が必要な場合、設計条件は妥当か。	//	☐	☐	
		8) 最深河床高の評価高は適切か。	//	☐	☐	
		9) 天端工、天端保護工の設置は妥当か。	//	☐	☐	
		10) 端部処理工は適切に設置されているか。	//	☐	☐	
		11) ブロック必要重量は妥当か。(設置実績等も考慮)	//	☐	☐	
		12) 吸出防止材、遮水シートの使い分けは妥当か。	//	☐	☐	
		13) 裏込材の設置は妥当か。	//	☐	☐	
		14) 多自然(工法・材料)に配慮しているか。	//	☐	☐	
		15) 水辺環境の創造、河川景観に配慮したか。	//	☐	☐	
		16) 止め杭の配置は妥当か。	//	☐	☐	
		1) 検討ケースの設定は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 矢板の型式は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 設計水平震度の設定は妥当か。	//	☐	☐	
		4) コーピングの大きさ、配筋は妥当か。	//	☐	☐	
		5) 継手効率は妥当か。	//	☐	☐	
		6) 腐食による低減率は妥当か。	//	☐	☐	
		7) 許容値、計算方法は正しいか。	//	☐	☐	
		8) 洗掘深は妥当か。	//	☐	☐	
		9) 施工方法を配慮しているか。	//	☐	☐	
		10) 土圧及び水圧の考え方は妥当か。(荷重図)	//	☐	☐	
		11) 変位の状況は妥当か、また矢板最小根入れ長は妥当か。	//	☐	☐	
		12) 特殊条件を考慮しているか。	//	☐	☐	
		13) 控え式の場合の控え形式は妥当か。	//	☐	☐	
		14) 控え式の場合の控え位置は妥当か。	//	☐	☐	
		15) 控え式の場合の緊張材は妥当か。	//	☐	☐	
		16) 材料使用区分は妥当か。	//	☐	☐	
		17) 現場条件と設定荷重の整合がとれているか。	//	☐	☐	
		18) 端部処理は妥当か。	//	☐	☐	
		19) ステップ幅は妥当か。	//	☐	☐	

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
6	コンクリート擁壁	20) 平水位、低水位等を考慮して笠コンクリート天端高を決めているか。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		21) 設計壁高は妥当か。	//	☐	☐	
		22) 矢板前面の根固め幅は妥当か。	//	☐	☐	
		23) 設計河床高の設定方法は妥当か。	//	☐	☐	
		24) 笠コンクリートは、プレキャスト製品または現場打ちか整理しているか。	//	☐	☐	
		25) コスト、市場性を考慮して矢板形式を決定したか。	//	☐	☐	
		26) 施工工法(矢板打設方法)は確認したか。	//	☐	☐	
		27) 残留水位・前面水位は確認したか。	//	☐	☐	
		28) 荷重条件は妥当か。	//	☐	☐	
		29) 許容応力度は妥当か。	//	☐	☐	
		30) 頭部変位量は妥当か。	//	☐	☐	
		31) 断面性能は妥当か(A,Z,I,E)。	//	☐	☐	
		32) 継手効率は妥当か。	//	☐	☐	
		33) ボイリング(砂質土)、ヒービング(粘性土)を考慮しているか。	//	☐	☐	
		34) 盤ぶくれを考慮しているか。	//	☐	☐	
		1) 最小部材厚は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 裏込土、埋戻土の種類と土圧及び水圧の考え方は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 適用基準は正しいか。	//	☐	☐	
		4) 洗掘深は妥当か。	//	☐	☐	
		5) 根入深さは妥当か。	//	☐	☐	
		6) 特殊条件を考慮しているか。	//	☐	☐	
		7) 施工法を配慮しているか。	//	☐	☐	
		8) 材料使用区分は妥当か。	//	☐	☐	
		9) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、段落し等)	//	☐	☐	
		10) 現場条件と設定荷重の整合がとれているか。	//	☐	☐	
		11) 水抜き穴を考慮しているか。	//	☐	☐	
7	基礎工	1) 基礎形式は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 形式寸法は妥当か。(杭の場合杭種、杭径等)	//	☐	☐	
		3) 支持層への根入れは妥当か、又支持層選定は妥当か。	//	☐	☐	
		4) ネガティブフリクションの照査を行っているか。	//	☐	☐	
		5) 適用基準は正しいか。	//	☐	☐	

細部条件の照査項目一覧表(様式－2)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
8	根固工	6) 特殊条件を考慮しているか。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		7) 施工方法は環境面を考慮して選定しているか。	//	☐	☐	
		8) 材料使用区分は妥当か。	//	☐	☐	
		9) 構造細目は妥当か。(杭頭処理、継手等)	//	☐	☐	
		10) 現場条件と設定荷重の整合がとれているか。	//	☐	☐	
9	水制工	1) 根固工の施工延長及び施工断面は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 洗掘深、設計河床高との整合は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 根固工の形式及び重量は妥当か。	//	☐	☐	
		4) 現地の既設ブロック重量との整合は図られているか。	//	☐	☐	
		5) 根固め工の敷設幅及び高さは妥当か。	//	☐	☐	
10	用排水路工	1) 水制工の施工延長及び施工断面は妥当か。(高さ、長さ、ピッチ等)	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 水制工の覆工材料の安定性を確認したか。	//	☐	☐	
		3) 水制工設置後の流下能力をチェックしたか。	//	☐	☐	
		4) 設置目的(水はね、堆積)は整理されているか。	//	☐	☐	
		5) 水制工の向きは妥当か。	//	☐	☐	
		6) 水制工の横断勾配は妥当か。	//	☐	☐	
		7) 力学的な安定性を考慮しているか。	//	☐	☐	
		8) 対象流量は妥当か。	//	☐	☐	
		9) 越流型、非越流型の整理は妥当か。	//	☐	☐	
11	坂路工、階段工	1) 堤防定規断面を侵していないか。(2Hルール)	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 水路の流下能力は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 法尻処理としての構造は妥当か。	//	☐	☐	
		4) 河川法上の取扱いは検討したか。	//	☐	☐	
		5) 水路構造(素掘、柵渠)は妥当か。	//	☐	☐	
		6) 占用されている埋設物等(上下水道等)の処理は妥当か。	//	☐	☐	
		1) 位置は妥当か。	設計図書・打合せ資料	☐	☐	
		2) 形式、形状寸法は妥当か。	//	☐	☐	
		3) 堤防定規断面との関係は妥当か。	//	☐	☐	
		4) 下流に向けて設置しているか。	//	☐	☐	

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

築堤・護岸詳細設計

[illegible]

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
13	軟弱地盤対策工	1) 対策工の目的及び工法は妥当か。 2) 対策工の効果の判定及び範囲は妥当か。 3) 安定計算、沈下量、液状化検討は妥当か。 4) 沈下が生じる場合、周辺構造物及び家屋の沈下の検討及び対策工法を行ったか。 5) 側方変位の検討を実施したか。 6) 円弧すべり安全率は妥当か。 7) 計画安全率を満足できない場合、対策を検討したか。 8) 計測工の計画はされているか。	設計図書・打合せ資料 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
14	コスト縮減	1) 新技術情報システム及び、NETISに登録されている新技術・新工法について北海道の採用実績等も含めて可能性を検討したか。 2) コスト縮減の検討を行ったか。	打合せ資料 〃	☐ ☐	☐ ☐	
15	建設副産物対策	1) 建設副産物の処理方法は適正か。	打合せ資料	☐	☐	

(追加項目記入表)

築堤・護岸詳細設計

築-17

築堤・護岸詳細設計

成果品の照査項目一覧表

(照査③)

業務名：_____

委託機関：_____

受託者名：_____

照査の日付：_____

受託者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

築堤・護岸詳細設計

[illegible]

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
3	数量計算	1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。 （工種分類、有効数字、位取り、単位、区分等） 2) 数量計算に用いた寸法、記号は図面と一致するか。 3) 数量取りまとめは、数量算出要領及び打合せ事項にあわせてまとめられているか。また、転記ミスや集計ミスはないか。 4) 横断面図による面積計算、長さ計算の縮尺は図面に整合しているか。 5) 工種・細目ごとに、数量計算の照査がなされているか。 6) 施工を考慮した数量計算となっているか。 7) 工種、種別、細目は工種体系と一致しているか。 8) 見積が必要な項目について、見積条件、見積数量等は整理されているか。 9) 工事数量総括表が正しく整理されているか。 10) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。 11) 工種の変わり目や法線の変化点における数量計算が妥当か。	数量計算書 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐		
4	施工計画検討	1) 施工方法、施工手順は妥当か。 2) 施工ヤード、施工スペースの設定は妥当か。 3) 工事用道路、仮排水等の計画は妥当か。 4) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は妥当か。 5) 濁水処理の検討は適切か。 6) 施工形態に合った機械の種類、規格は妥当か。 7) 安全性(仮設も含めて)が配慮されているか。 8) 経済性(仮設も含めて)が配慮されているか。 9) 関係法令を遵守した計画になっているか。 10) 工事中の環境面(騒音、振動、汚濁、水位低下等)が配慮されているか。	施工計画書 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐		
5	設計調書	1) 設計調書の記入は適正になされているか。	報告書	☐ ☐		

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

築堤・護岸詳細設計

No	項 目	主 要 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考 (照査の日付や結果等を記入する。)
				対 象	照 査	
6	報告書	1) 報告書全体の構成はわかりやすく整理されているか。 2) 設計条件の考え方は整理されているか。 3) 比較、検討の結果が解りやすく整理されているか。 4) 工事の発注に際しての留意事項、注意事項及び指定すべき仕様・条件等が記載されているか。 5) 設計で使用した既存成果や資料が添付されているか。 6) 過年度の調査や設計の経緯が記載されているか。 7) 業務概要は適切に記載されているか。 8) 概算工事費の算出はなされているか。 9) 施工手順を明記しているか。 10) 抜粋した資料や適用基準値を技術指針等により引用している場合、出版図書名及び頁を明記しているか。 11) 協議事項は適切に反映されているか。	報告書 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
7	建設副産物対策	1) リサイクル計画書を作成しているか。	リサイクル計画書	☐	☐	
8	改正土壤汚染対策法	1) 全体計画における土地の形質の変更面積が3,000m2以上であるか 確認し、確認結果を報告書に記載したか。 2) 一定規模(3,000m2以上)の土地の形質の変更に該当する場合、 土壤汚染対策法第4条に基づく届出が必要であることを報告書に 明記したか。	報告書 〃	☐ ☐	☐ ☐	
9	TECRISの登録	1) TECRISの登録を行ったか。	登録内容確認書	☐	☐	
10	成果品	1) 契約時の提出成果品一覧表と整合しているか。	成果品	☐	☐	

築堤・護岸詳細設計

(照査の日付や結果等を記入する。)

築 堤 ・ 護 岸 設 計 調 書 (1 / 8)

業 務 名	
護 岸 名	
河 川 名	
箇 所 名	
発 注 者 名	建設管理部 出張所
受 託 者 名	
照 査 技 術 者	
管 理 技 術 者	
作 成 年 月 日	平成 年 月 日

1) 基本事項

全 体 平 面 図 及 び 標 準 横 断 図

河道計画諸元	河川名	() 級河川			川
	施工箇所 (設置位置)	北海道 市・郡 町 地先 川 岸 km～			
	計画高水流量				
	堤防勾配	I=1／	平均流速	V=	(m/s)
	高水勾配	I=1／	川幅	B=	(m)
	高水敷勾配	I=1／	低水路幅	B=	(m)
	河床勾配	I=1／	高水敷幅	B=	(m)
	設計方針	河道特性	計画地点の特徴:		
法線の考え方		全体計画との整合、現況河道との関係、上下流の法線との関係について特に留意した事項:			
周辺環境との調和の考え方		周辺環境との調和について特に留意した事項:			
築堤の考え方 (特に設計に留意した事項を記述)		計画断面			
		施工断面			
		余盛の考え方			
		基礎処理			
		漏水対策			
築堤の目的		対象の築堤は である。 1)本堤防 4)導流堤 7)湖岸堤 2)囲繞堤 5)背割堤 8)越流堤 3)仕切堤 6)高潮堤 9)その他 ()			
築堤盛土形状		築堤盛土形状は である。 1)前腹付 2)後腹付 3)全体嵩上 4)新規			
築堤型式	築堤型式は である。  1)土堤 2)パラペット堤 3)三面張 4)その他 ()				

設計方針		低水路法線の考え方				
		強度および耐久性				
		護岸の高さの考え方				
		工期選択の考え方 (非出水期を基本とするが サケ・マス遡上への影響に 左右されることあり)	法覆工			
			基礎工			
	根固工					
	護岸の目的	護岸の目的は である。				
		1) 流路固定 3) 侵食防止 5) その他() 2) 水衝部強化 4) 波浪・飛沫対策				
	護岸設置位置	護岸設置位置は である。				
		1) 低水 2) 高水 3) 裏法 4) その他()				
護岸型式	法覆型式は である。擁壁型式は である。 1) 練ブロック張 2) 空(連節)ブロック張 3) 練積ブロック 4) 空積ブロック 5) 蛇籠・カゴマット 6) プレキャスト法枠 7) 場所打ちコンクリート法枠 8) その他()					
	1) 自立式鋼矢板 2) 控え式鋼矢板 3) ブロック積擁壁 4) もたれ式擁壁 5) コンクリート重力式擁壁 6) 鉄筋コンクリート擁壁 7) 棚式 8) その他()					
針	施工時の配慮	築堤	段切り施工			
			締め固め厚			
		護岸	湧水対策			
			仮設の考え方	工事用道路	幅＝	m、勾配
		資材ヤード		(有)	m ²	(無)
		山留工		型式：		
		仮締切の考え方	施工期間			
			設計水位			
構造						

設計条件	荷重条件等	上 載 荷 重	
		単 位 体 積 重 量	
	基礎地盤条件	支 持 地 盤	
		基 礎 諸 定 数	
	使用材料及 許容応力度	盛 土 材	
		護 岸 工	
		コ ン ク リ ー ト	
		鉄 筋	
		鋼 矢 板	
		鋼 材	

2) 築堤

項目	細別	設計値	基準値	備考
高さ	築堤高	H= m	1m以下(0.8m程度以下が望ましい) 計画高水流量による 堤防余盛基準による	各河川の計画による
	パラペット高	H= m		河川管理施設等構造令より
	余裕高	H= m		河川管理施設等構造令より
	余盛高	H= m		河川管理施設等構造令より
幅	天端幅	B= m	計画高水流量による 3m以上	河川管理施設等構造令より
	小段幅	川表側 B= m 川裏側 B= m		河川管理施設等構造令より
法勾配		1 : ~ 1 :	1:2より緩(安定計算を実施している場合は、安全率1.2以上)	河川管理施設等構造令より
軟地対策工	目的			
	工法			
	範囲			
	安定度			
	液化状態			
	沈下量			
法の覆工の種別	川表 H.W.L 上			
	川表 H.W.L 下			
	川裏端			
	小天小段			
付帯工	坂路	堤防定規外に設けている。いない	堤防定規外で下向きにとりつける	
	堤脚水路	下流向きに箇所 堤防定規外に設けている。いない	堤防定規外に設ける	

3) 高水護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
護岸型	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水位以上	
法勾配		1 :	堤防法勾配と同じ	
基礎工	天端高		計画高水敷高以下	
	高さ	h= m		

4) 低水護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
護岸型	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水敷高、現況河岸高	
法勾配		1 :		

項目	細 別	設 計 値	基 準 値	備 考
法留工 (法先部)	天 端 高	m	護岸の根入れ深さは、原則として河川事業設計要領による。	
	根 入 れ 深 さ	m		
	高 さ	$h=$ m		
	鋼 矢 板 長	$L=$ m 型		
根 固 工	ブロック重量	t/個	原則として、河川砂防技術基準(案)による。各河川の計画と整合を図る。	※現地の既設重量を確認したか
	根 固 の 幅	m	原則として、河川砂防技術基準(案)による。各河川の計画と整合を図る。	
天 端 保 護 工	設 置 の 有 無	設置している。 いない。		
	構 造 種 別			
	幅	m		
仮 締 切	仮 締 切 高	m		
	鋼 矢 立 板 式 自 立 式	根入長 m 型 矢板長 m 頭部変位量 cm		
	土 上 載 荷 重	土圧係数 $ka=$ kae= 常時 kN/m ² ,地震時 kN/m ²	クーロン土圧 常時 10.0 kN/m ² 地震時 5.0 kN/m ²	

5)鋼矢板護岸

項目	細 別	設 計 値	基 準 値	備 考
仮 想 地 盤	自 立 矢 板 式 控 え 式	設計地盤から $0. \times H =$ m下	荷重強度の釣り合う位置 設計地盤より壁高(H)の0.1~0.3H	
根 入 長	自 立 矢 板 式 控 え 式	$D=$	仮想地盤より $3/\beta$ 以深 控え取付点のモーメントの釣合い長さ $\times F_s$	
許 容 変 位 量	自 立 矢 板 式 控 え 式	$\delta =$	天端で 5cm(常時) 7.5cm(地震時) 天端で 5cm(常時) 7.5cm(地震時)	Changの式 控え変位量
断 面 効 率	継 手 効 率 代 腐 食	$I=$ $Z=$	断面二次モーメント $\alpha 1=0.8$ (頭部固定の場合) 断面係数 $\alpha 2=1.0$ (頭部固定の場合) 片面 1mmを考慮(防食矢板の場合、別途考慮)	
曲モーメント	自 立 矢 板 式 斜 控 え 式	$M=$	Changの式により求める 控え取付点と仮想地盤面 ラーメン計算により求める	
荷 重 図				

6)擁壁護岸

項 目	細 別	設 計 値	基 準 値	備 考
安 定 算	転倒(合力の作用点)	$e=$	常時 $1/3 \sim 2/3B$ 地震時 $1/6 \sim 5/6B$	協議による
	滑動(直接基礎)	$Fa=$ $Fe=$	常時 $Fs \geq 1.5$ 地震時 $Fs \geq 1.2$	
	支持力(直接基礎)	$Fa=$ $Fe=$	常時 $Fs \geq 3$ 地震時 $Fs \geq 2$	
	杭頭変位	$\delta=$	常時 地震時	
構 造	目地間隔	$\phi=$	約10~20m	
	最小部材厚	$t=$	30cm	
	ブロック積擁壁		裏込コンクリートを用いない構造が基本	
	もたれ式擁壁			
鉄 筋	許容応力度	$\sigma=$	常時 160N/mm^2 地震時 300N/mm^2	
	かぶり		床版下面 15cm(杭基礎) 10cm(直接基礎) その他 7.5cm	
基礎杭	支持力計算	$Ra=$ $\sigma=$	道路橋示方書による	
荷重図				

7)柵式護岸

項 目	細 別	設 計 値	基 準 値	備 考
矢 板	安全率		控え式矢板に同じ	
	継手効率			
	腐食代			
基礎杭	支持力計算		コンクリート擁壁に同じ	
	杭頭変位			
	杭間隔			
鉄 筋	かぶり		コンクリート擁壁に同じ	
荷重図				

築 堤 ・ 護 岸 設 計 調 書 (8 / 8)

8)その他護岸

(追加記入表)

項 目	細 別	設 計 値	基 準 値	備 考